

第51回日本社会科教育学会全国研究大会

自由研究Ⅱ－第7分科会

高校生の社会認識から見た 公民科の実践的課題

芝浦工業大学柏中学高等学校 杉浦 正和

本報告は、武蔵大学総合研究所のプロジェクト研究「転換期における
市民意識形成に関する総合的調査研究」の成果に基づき、
共同研究者は、宇田川宏(日本福祉大学名誉) 黒澤英典(武蔵大学)西
成田貞子(東京経済大学非常勤) 若菜俊文(都立北野高校)

○和井田清司(武蔵大学非常勤)である。

9/23/01

質問紙調査の対象と方法

- 質問.....多重回答式45問、自由記述式2問
- 内容.....①回答者特性質問19
(生活状況8問、人生観・社会観6問、自己認識5問)
②社会認識(概念－現状－関わり－価値)質問21
③社会科実践と生徒意識の質問7
- 調査対象.....千葉県 の 県立高校中心 25校 1701人
- 進学度(進路多様・中位進学・上位進学)・性・学年別分析
- 設問.....多重回答(基本3)式→複雑な意識状況の解明

認識の結びや揺れを探る

- 社会認識⇒①概念理解、説明・定義（法の説明）
②イメージ、現実認識（日本の法のイメージ）
③**関わり方、社会的行動**（法への関わり方）
④あり方、価値観やビジョン（法のあり方）
- 分野.....国家、法、平和・戦争、税 選挙、競争・自由観

単線的に
結びつか
ない

<国家との関わり>

- 多重回答「3つまで選んで」⇒なしから最大3つまで
平均2つ **互いに矛盾しそうな回答**
- 分析.....多重回答分析のSPSSと Excel

微妙な揺れ

高校生の生活実態と生活意識

豊かな消費 学びからの逃走

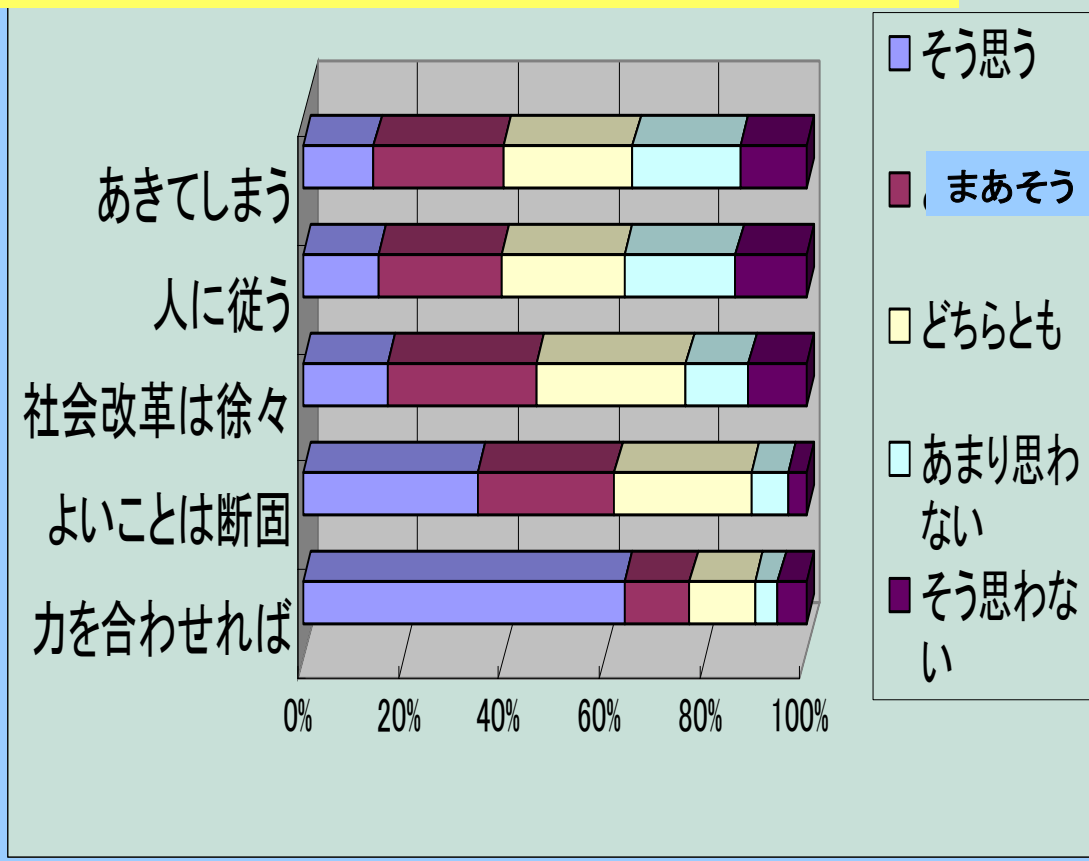
- 8割が個室、7割が携帯電話(PHSを含む)
- 20%の高校生が
週3日以上のアルバイト
- 学習はテスト直前を除き**全くしないが5割**
- 関心事→趣味 65% 価値→優しさ 70%
- 誇り→豊かさ 57% 日本→学歴差別 46%
- 21世紀→自然 56% ニュース番組から 86%

奢侈生活を
求めて

ライフスタイルの因子分析

強いグループ・タカ派志向

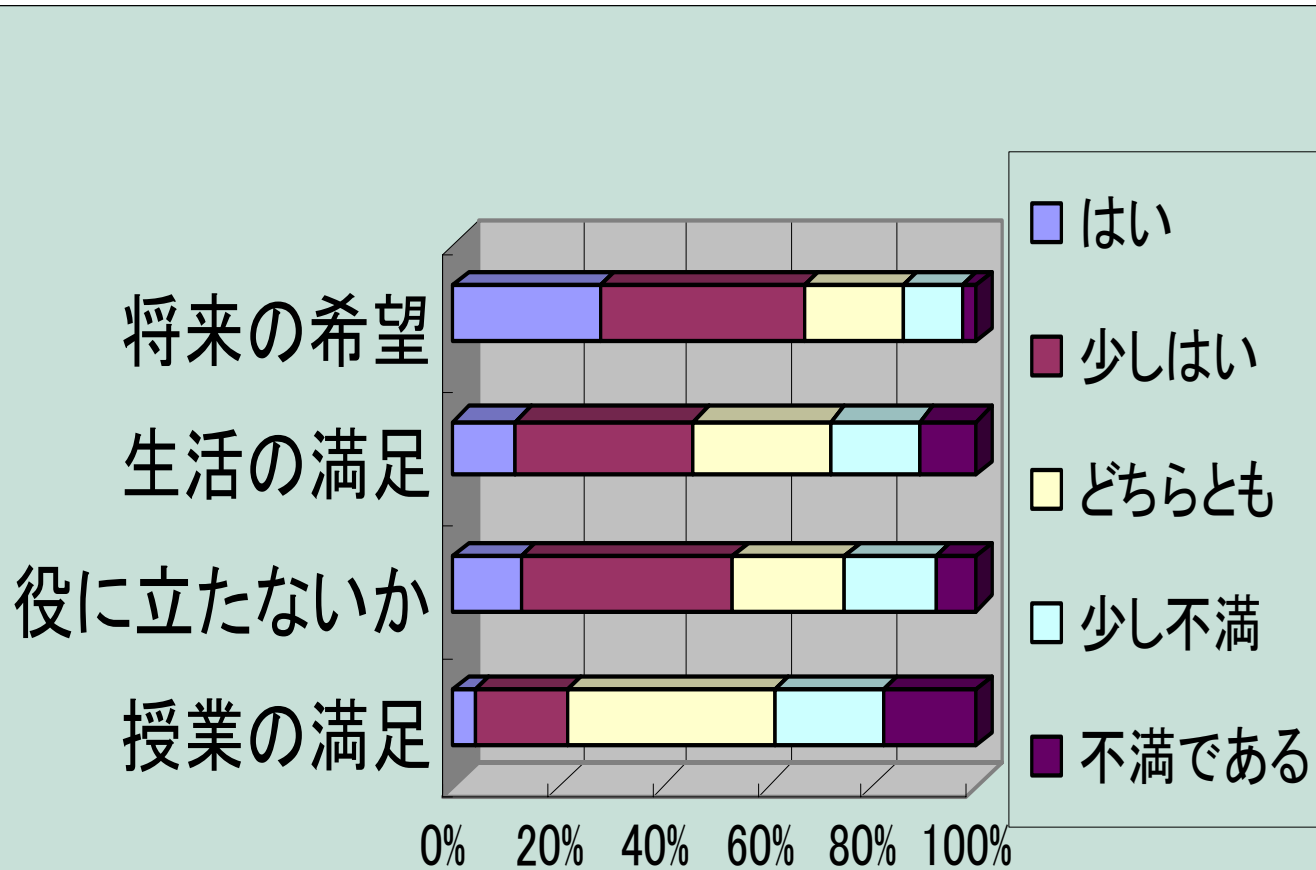
- 設問15 消極－積極
- 設問16 反主流－主流
- 設問17 保守－革新
- 設問18 **タカ派**－ハト派
- 設問19 **結社**－非結社



ライフスタイル質問は、飯戸弘『社会調査ハンドブック』
 (日本経済新聞社、1987年)の5因子から選ぶ

希望、満足、役立ち

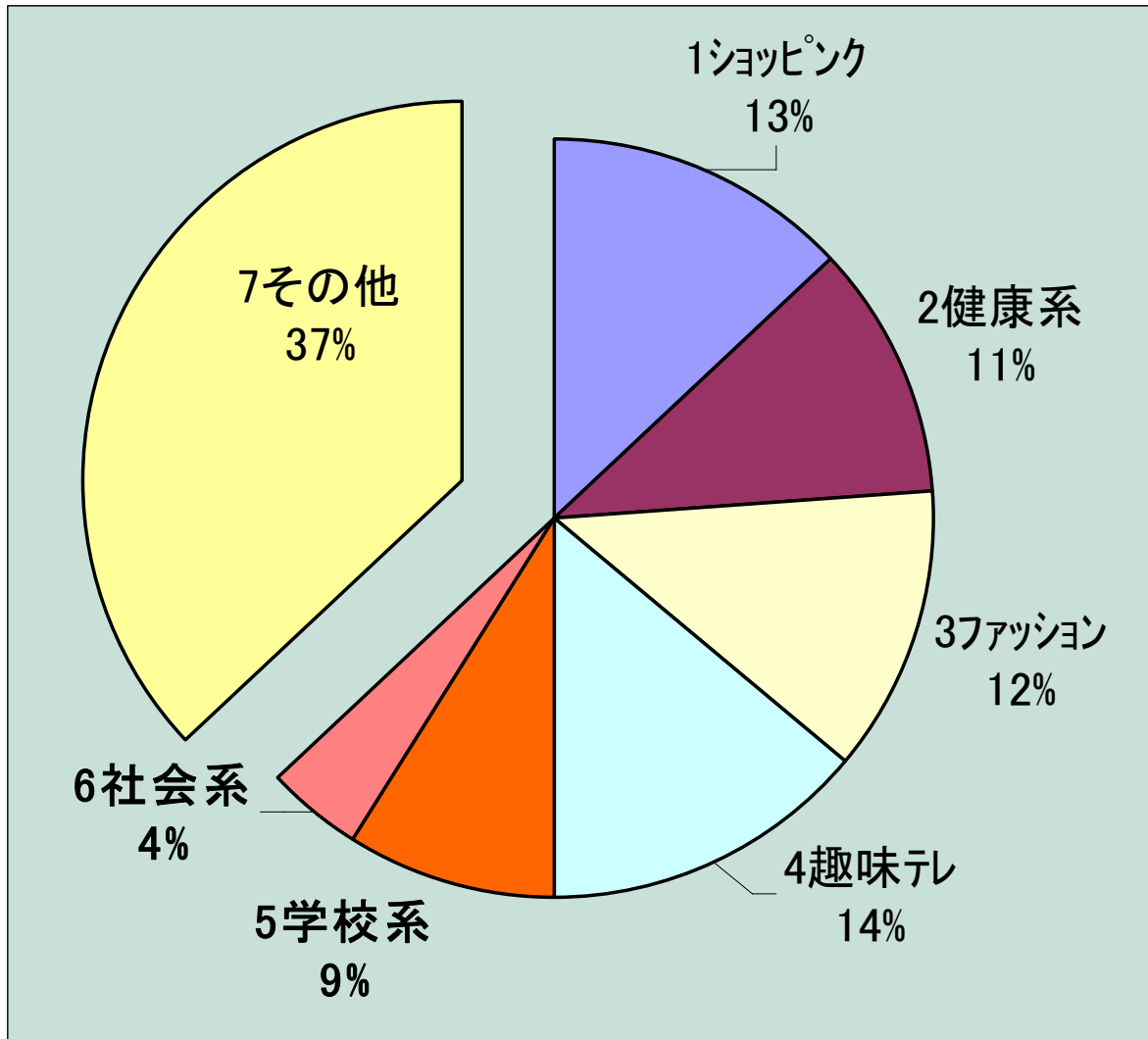
効用感低いが、将来希望とても大



女性は効用感低い
が、満足度希望度高い。

学校授業への不満は、男性
—3年生—多様校と高い。

日常の関心によるグループ分類



- 趣味漫画TV系
14%
- ファッション系
12%
- ショッピング系
13%
- 健康(shape up)
系11%
- 学校系 (生き方
+部活+学習)
9%
- 社会動向系**4%**

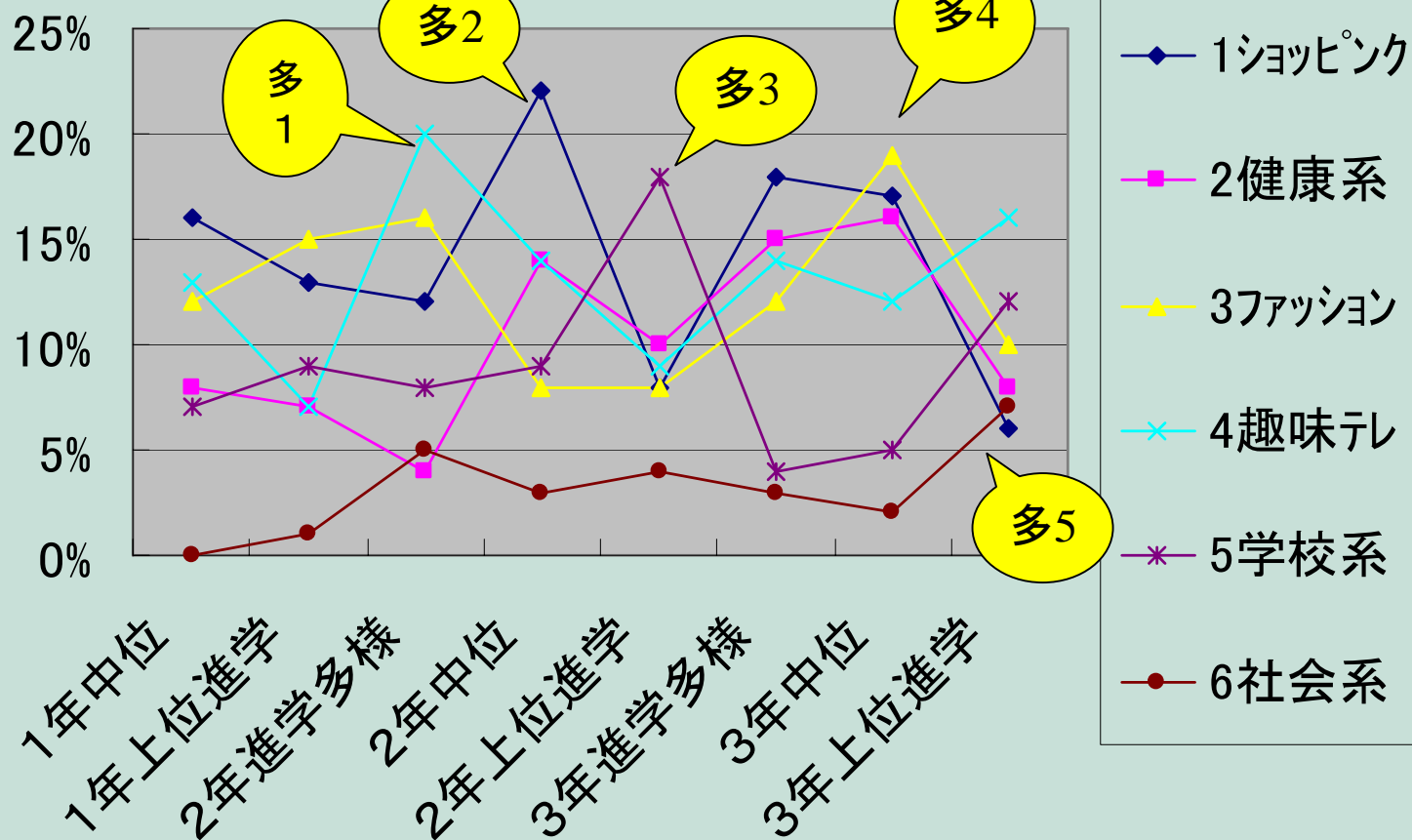
学校への関心者少ない わずか9%

			0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	%	
進路	生き方、進路	音楽やゲーム、趣味	学習、成績	■													1.3%			
	生き方、進路	音楽やゲーム、趣味	クラブ活動や行事	■													1.6%			
	生き方、進路	音楽やゲーム、趣味	なし	■													1.2%			
	生き方、進路	学習、成績	クラブ活動や行事	■													0.3%			
	生き方、進路	学習、成績	なし	■													0.2%			
	生き方、進路	クラブ活動や行事	なし	■													0.1%			
	生き方、進路	なし	なし	■													0.7%			
学習	学習、成績	音楽やゲーム、趣味	クラブ活動や行事	■													0.2%			
	学習、成績	音楽やゲーム、趣味	なし	■													0.1%			
	学習、成績	クラブ活動や行事	なし	■													0.1%			
	学習、成績	なし	なし	■													0.0%			
部活	クラブ活動や行事	音楽やゲーム、趣味	読書・マンガ	■													1.5%			
	クラブ活動や行事	音楽やゲーム、趣味	なし	■													0.7%			
	クラブ活動や行事	なし	なし	■													0.8%			
																			合計	8.9%

学習、成績が特に低い

学年と進学意識で違う関心

学年・進学度別割合



ショッピング

2年中位校

多2

学校系

2年上位校

多3

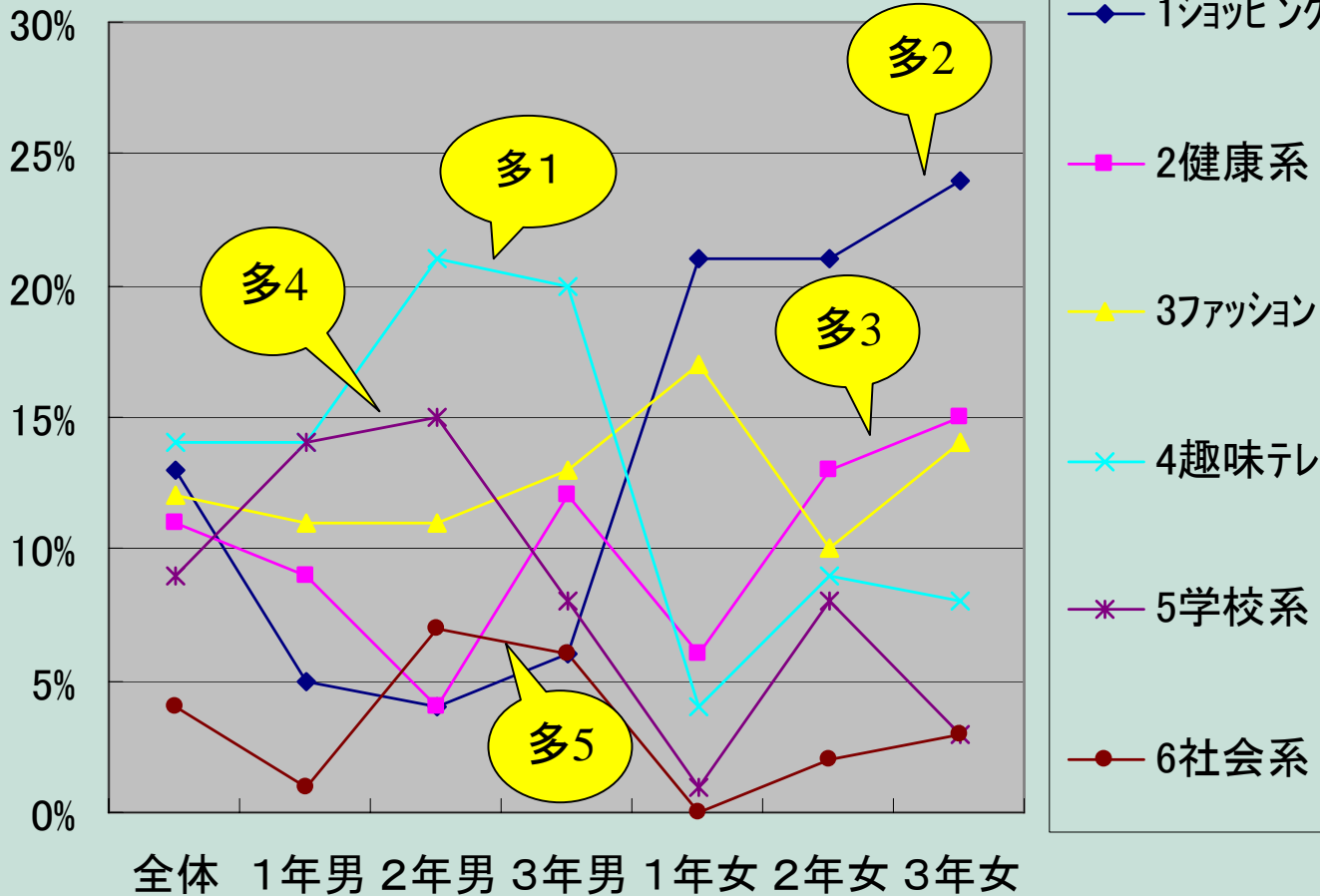
社会系

3年上位校

多5

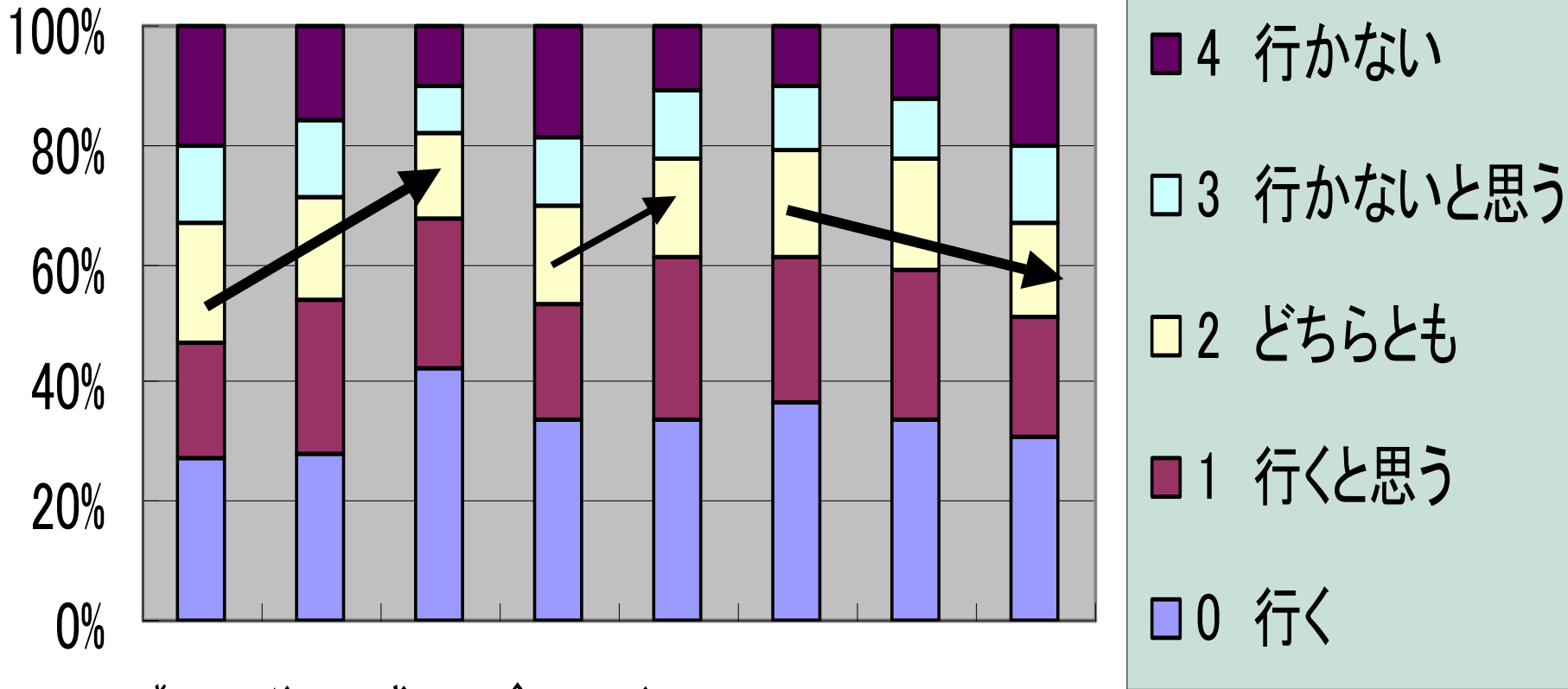
男女で大きな関心の差

性・学年別割合



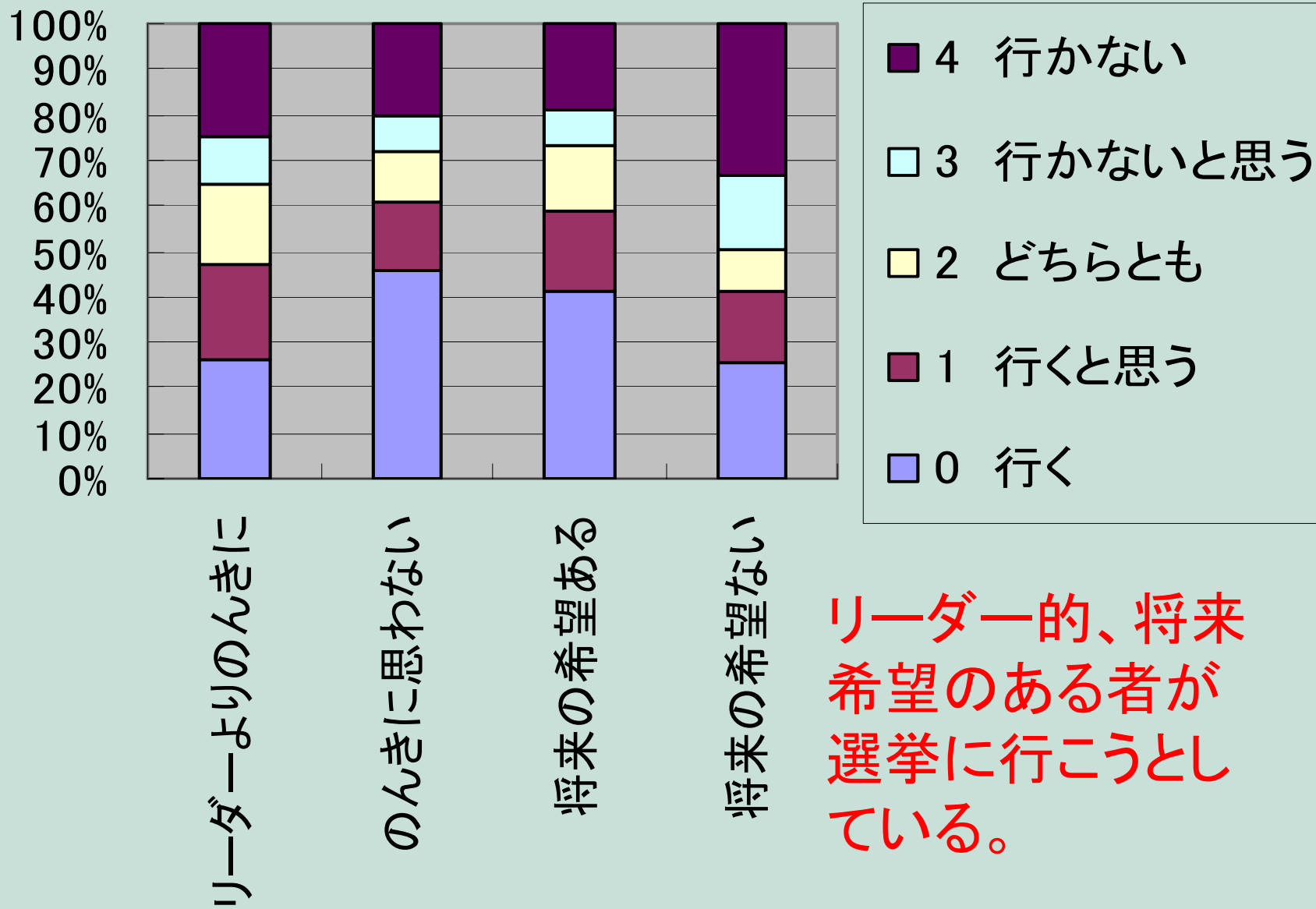
1. 男は趣味系
2. 女は買物系
3. 高学年でシエ
イブアップ系
4. 1・2年男が
学校系
5. 2・3年男が
社会系

＜図10＞選挙権をえたら選挙に行くか



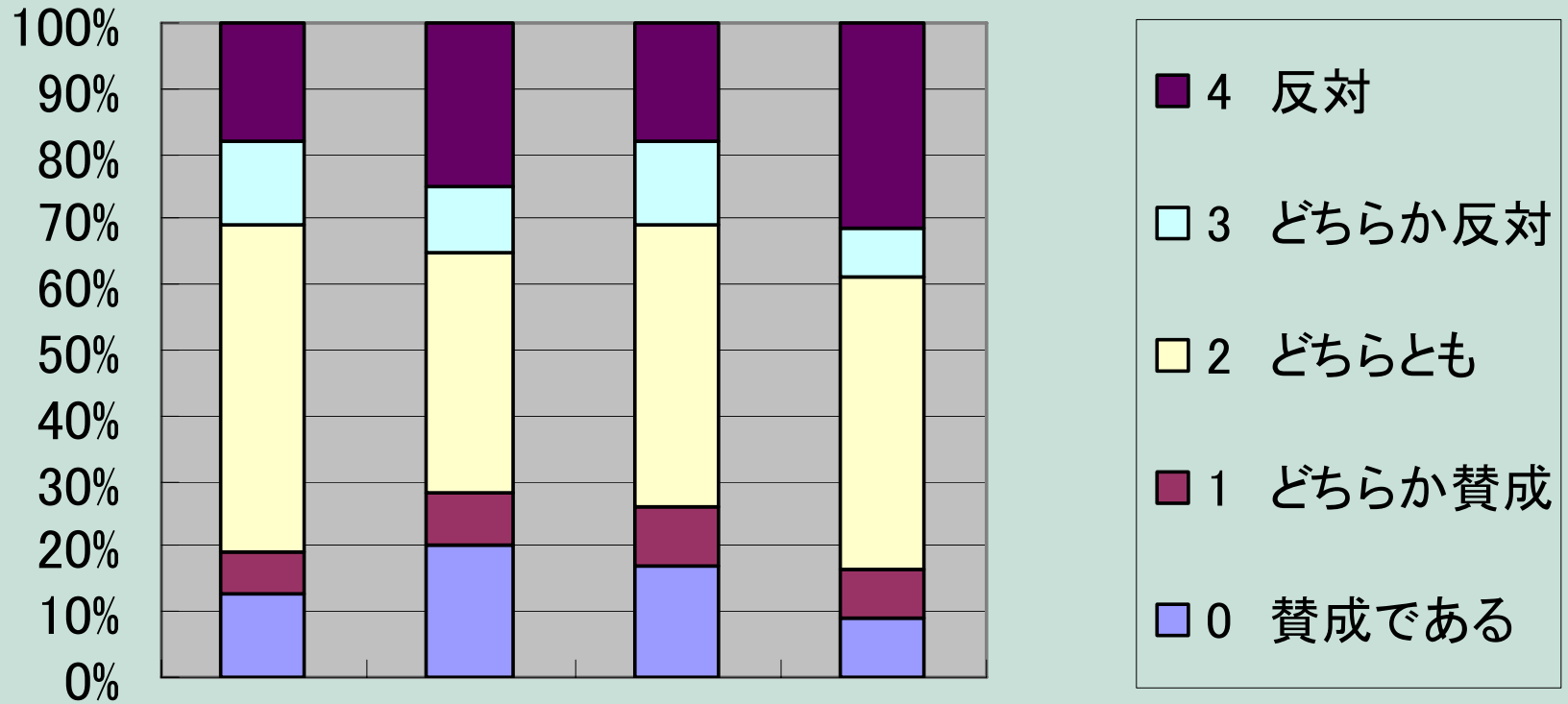
**上位進学校、
1年生が選
挙に行く。**

選挙権をえたら選挙に行くか



リーダー的、将来希望のある者が選挙に行こうとしている。

18才選挙権に賛成か

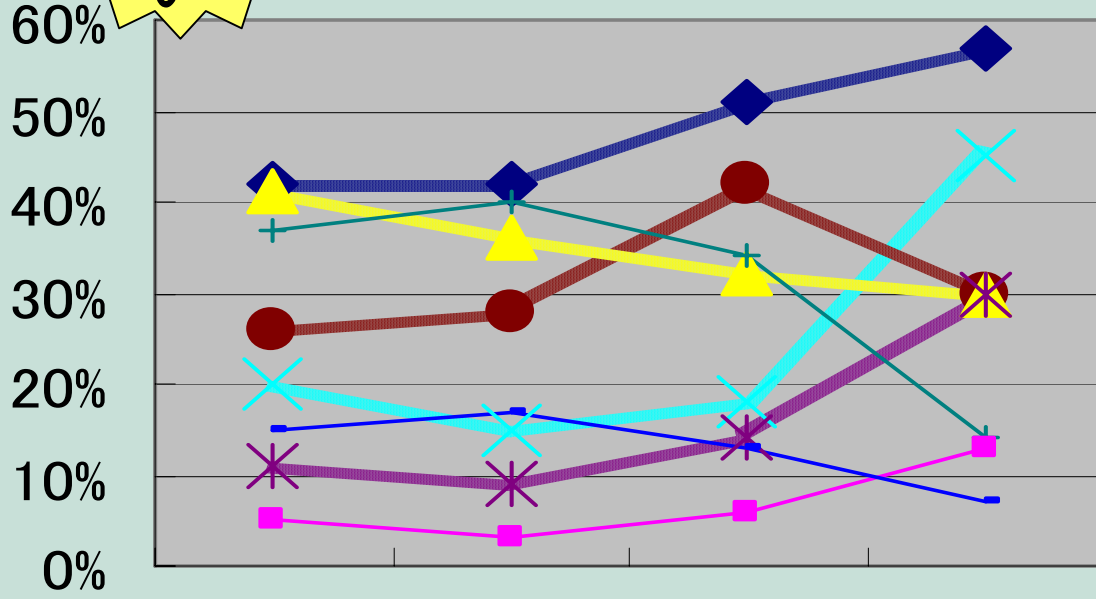


リーダーよりのんきに
のんきに思わない
将来の希望ある
将来の希望ない

リーダー的な
者の意見が
割れる。

大きな違い

法イメージとの関係



法の概念

3 犯罪を取り締まる

常識的

5 不可欠なルール

7 政府をもしぼるルール

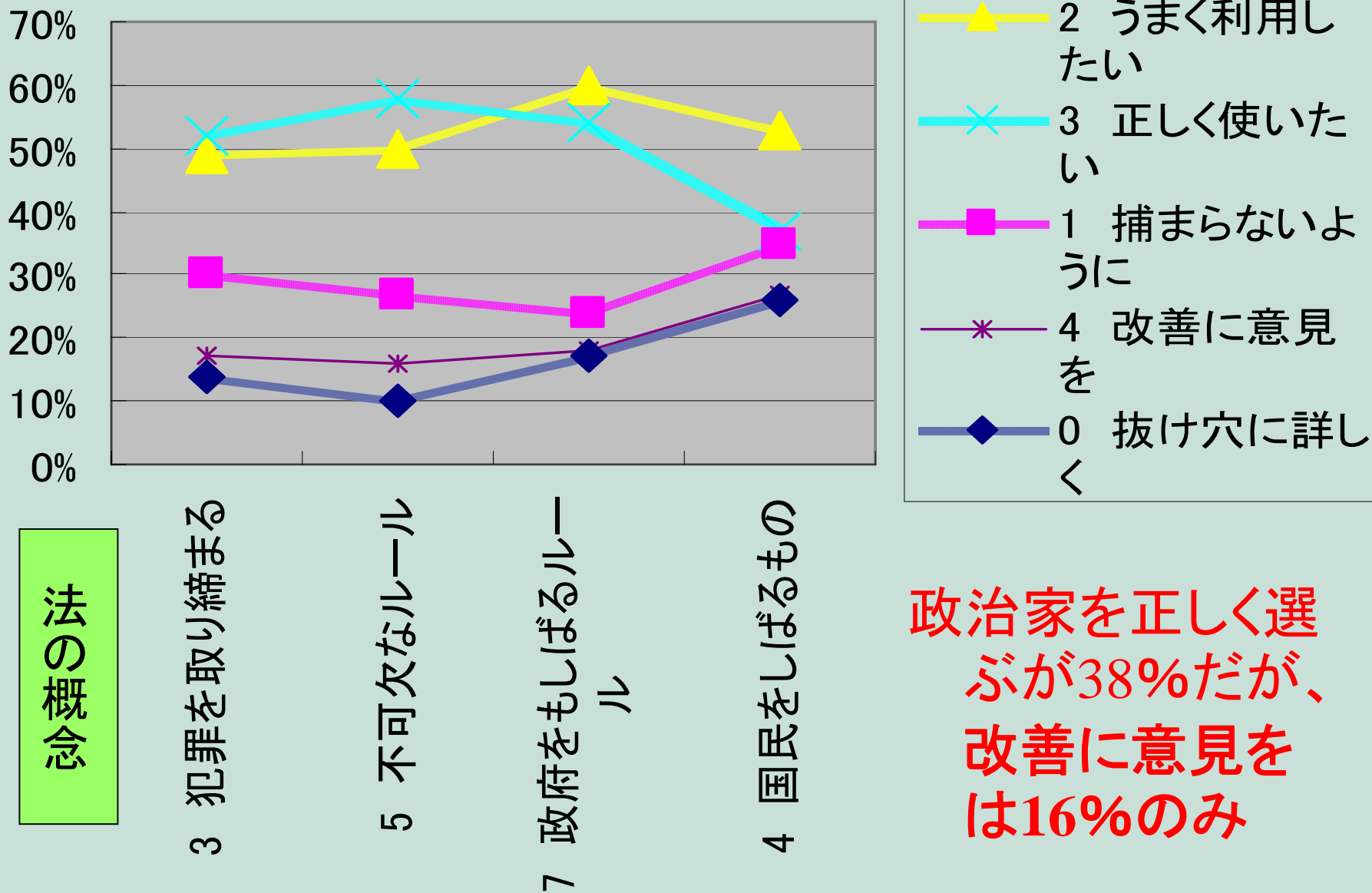
政府対抗的

4 国民をしぼるもの

- 0 法の抜け穴を利用
- 3 政府が勝手に決めた
- 5 悪法も存在している
- 2 語句が難しく
- 4 個人の自由を制限
- 7 人権が守られている
- 1 運が悪く損をしただけ

小さな差

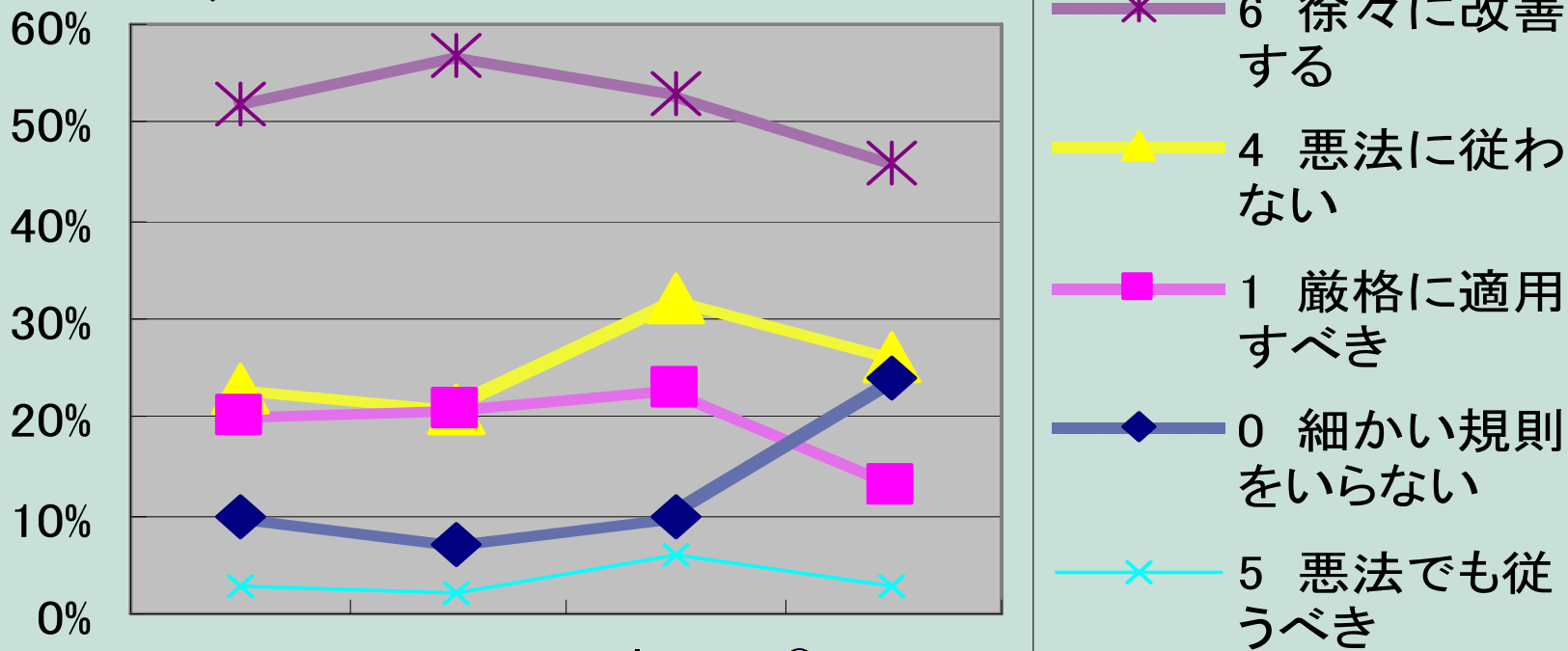
法への関わり方との関係



政治家を正しく選ぶが38%だが、改善に意見は16%のみ

そこそこの差

法のあり方との関連



法の概念

3 犯罪を取り締まる

常識的

5 不可欠なルール

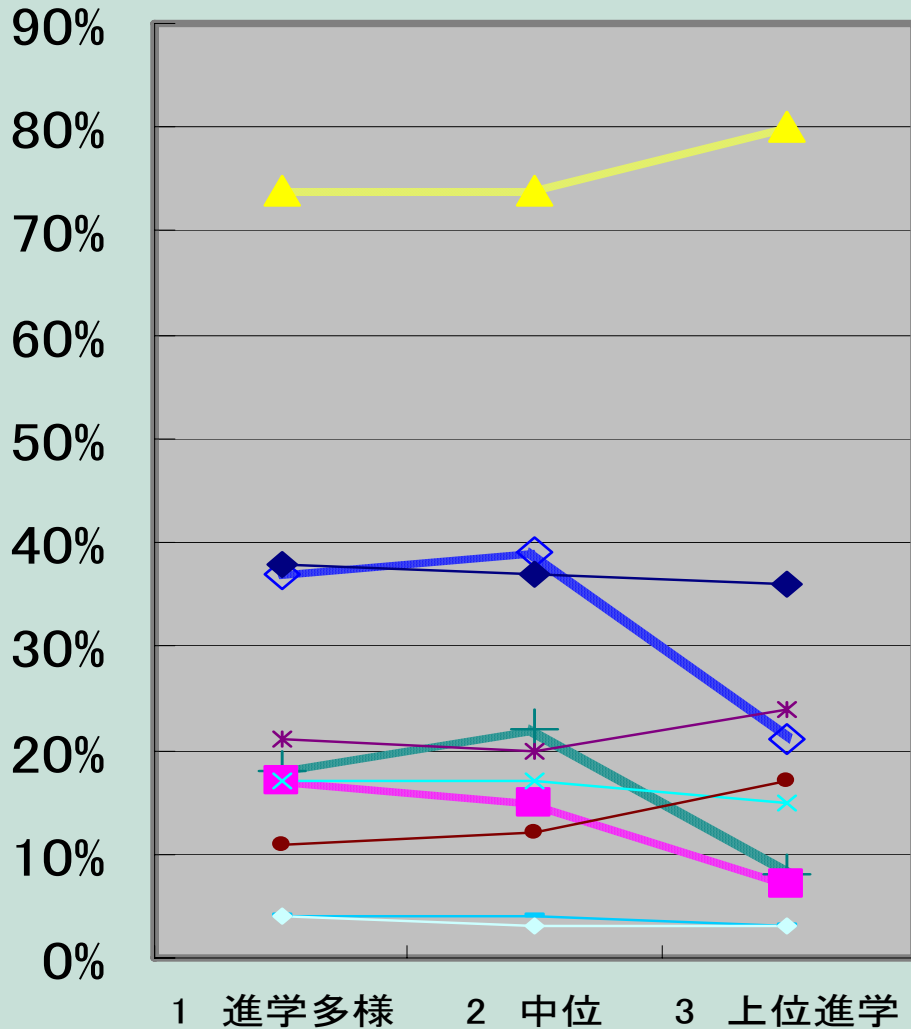
7 政府をもしぼるルール

政府対抗的

4 国民をしぼるもの

改善50%、人権より重視は38%と、価値観だけ前向き。

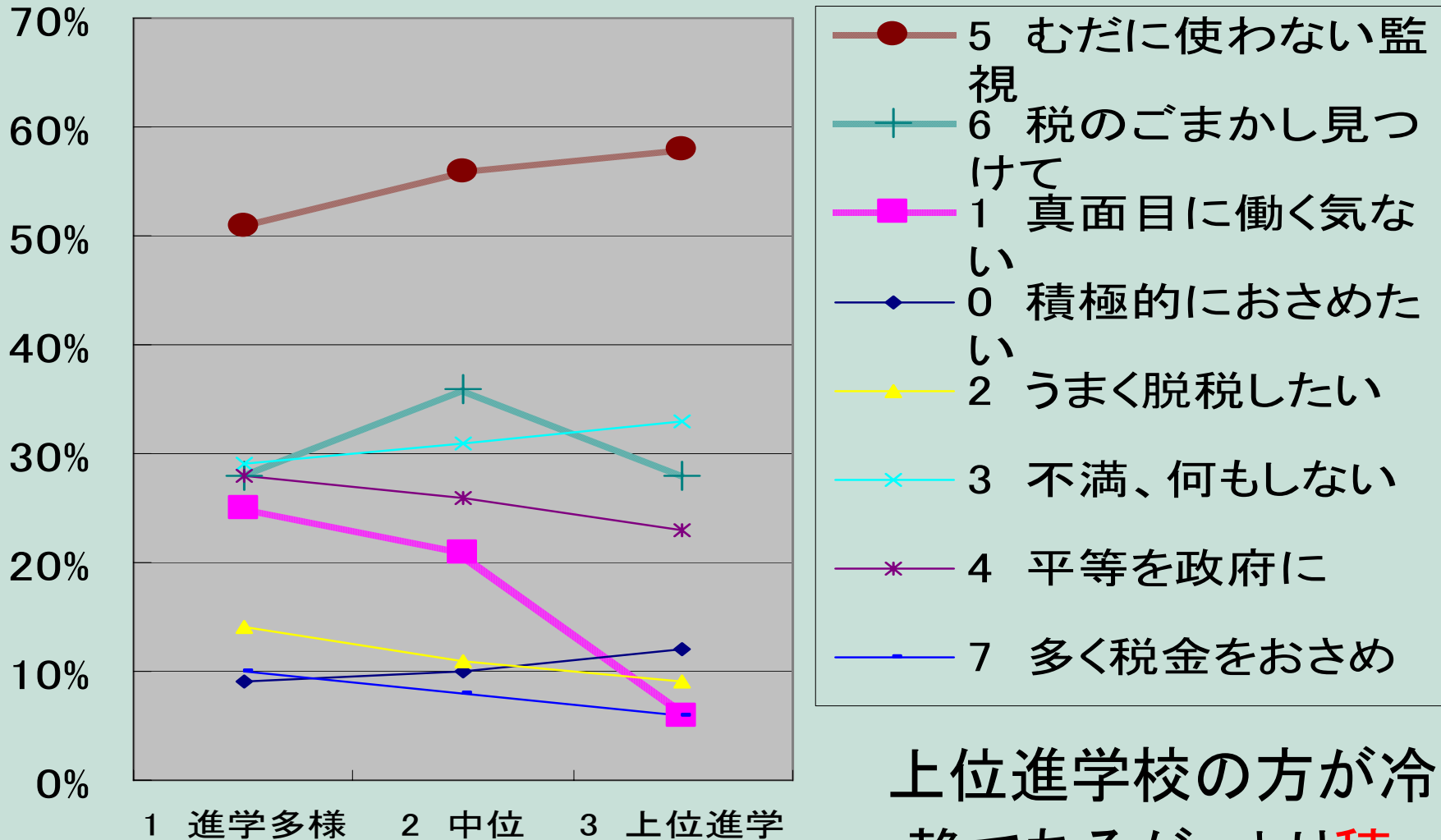
進学度別税イメージ



- ▲ 2 政府の税金無駄遣い
- ◇ 7 消費税はやめろ
- + 6 税金はゼロがいい
- 1 税金払うのは損
- ◆ 0 大金持ちほど脱税
- × 3 政府が勝手に取り立て
- * 4 役人が
- 5 社会保障に
- 8 大金持ちから取りすぎ
- ◇ 9 税金が少ない方

上位進学校の方が、
より客観的理性的に見ている。

進学度別税関わり



上位進学校の方が冷静であるが、より積極的と言えない。